

2021年10月14日

香港ブックフェア出展と訪日旅行に係るアンケート結果について

香港事務所長 波多野 直美

1. 香港ブックフェアについて

今年7月14日～21日の7日間、香港コンベンション&エキシビションセンターで香港ブックフェア2021が開催された。ブックフェアは香港最大の一般消費者向け書籍見本市であり、例年100万人以上が訪れる香港でも来場者の多い展示会の一つである。昨年は新型コロナウイルスの影響で中止に追い込まれたが、2年ぶりの開催となる本年は、延べ83万人もの来場者で賑わった¹。本事務所も日本政府観光局をはじめとした日本関係者のブースにより形成されるジャパンパビリオン内にブース出展し、福岡県内観光地のプロモーションを行うとともに、来場者へのコロナ後の訪日旅行に関するアンケートを実施した。

2. ジャパンパビリオン内での福岡県PR

(1) ブースにおける福岡県観光PR

今回のジャパンパビリオンでは自治体に対して15㎡ほどの広いブースが提供されたため、ブースの壁面は一面に県内各地の観光地の写真を配置し、洗練されたデザインで他のブースとの差別化を図った(写真1)。ブース内では本県の観光パンフレットを中心に配布したが、山口県や佐賀県のパンフレットも並べることで広域的な連携を



(写真1) 福岡県事務所ブースの様子

意識した²。また、観光プロモーション動画も放映したが、今回はブックフェアということもあってか、動画よりもパンフレットを見て足を止める来場者が多かった。さらに、訪日旅行に関するアンケート回答者や事務所のフェイスブック(以下「FB」)をフォローしてくれた人にノベルティを配布した結果、FBフォロワーを大幅に増やすことができ³、また、アンケートは800人以上の来場者から回答を得ることができた。

¹ <https://hkbookfair.hktdc.com/en/Press/Press-Releases/2021jul20.html> 参照。

² 海辺の絶壁に鳥居が連なる「元乃隅神社」(山口県)は訴求力があり、パンフレットを見て足を止める人も多く、福岡県～山口県周遊ルートへの提案は本県北部にとってもメリットがあると感じた。

³ ブックフェアを終えた時点で、当事務所FBのフォロワーは839名増の72,015名となった。

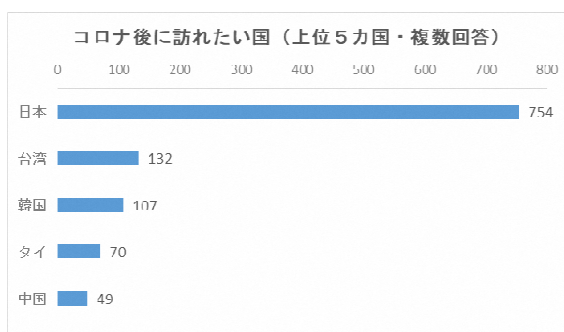
(2) アンケート結果について - コロナ後に訪れたい国・第1位は「日本」 -

香港人は訪日旅行リピーターが多いことは他のアンケート調査でも既に知られている⁴が、今回のアンケート⁵でも、訪日回数は2～5回が34%と最も多く、次いで、6～10回が20%と続くが、16回以上と答えた人の割合が15%という結果となった。

また、「コロナ後に訪れたい国は日本」と答えた人は754名で、回答者全体の約90%を占めた(表1)。これは、当事務所のブースがジャパンパビリオン内にあり、回答者がそもそも日本に関心の高い層であったことを差し引いても他を圧倒する結果となった。実際にブースを訪れた人からは口々に

「早く日本に行きたい」「いつになったら日本に行けるのか」といった声が数多く聞かれた。

また、パンフレットに関しても、他で紹介されていないようなコンテンツを含み、かつ情報量が多いパンフレットが圧倒的に人気であったことから、彼らがまだ訪れたことのない場所や体験したことのないコンテンツを求めている様子が伺えた。



(表1) アンケート「コロナ後に訪れたい国」
回答結果

3. アンケートの分析と今後の誘客活動

今回のアンケート結果から改めて浮き彫りになったのは、香港人の訪日回数の多さ、そして日本への旅行を待ち望む声である。これまで何度も日本に行ったことがあるにも関わらず、今後も何度でも日本に旅行したいと考えている香港人が非常に多いということがブースで接客していても実感できた。

一般に日本の美しい景色や特別な体験を求めて日本を訪れたがっている香港人は非常に多く、また、彼らにとって日本は「質の高いものを安く購入できる」魅力的な場所でもあると言われている。今回のアンケート結果からもコロナ後には多くの香港人が日本を訪れることが予想されるが、福岡県が彼らにとって魅力的な場所であることをFBやインスタグラムといったSNS等、効果的な手法でPRすること⁶で、多くの香港人が何度も訪れる場所になると思われる。

⁴ JNTO『訪日旅行データハンドブック 2020』「訪日香港人の訪日回数」を参照。

⁵ 回答者数は835名(男性34.5%、女性65.5%)。年齢構成は19歳以下5.9%、20代17.8%、30代24.8%、40代27.4%、50代16.2%、60代7.1%、70代以上0.8%。

⁶ 今回のアンケートでは、旅行の際の情報収集先としてFBやテレビ番組を挙げた人が多く、次いでインスタグラム、youtube、ブログという結果となり、情報誌や旅行社と答えた人は少なかった。